

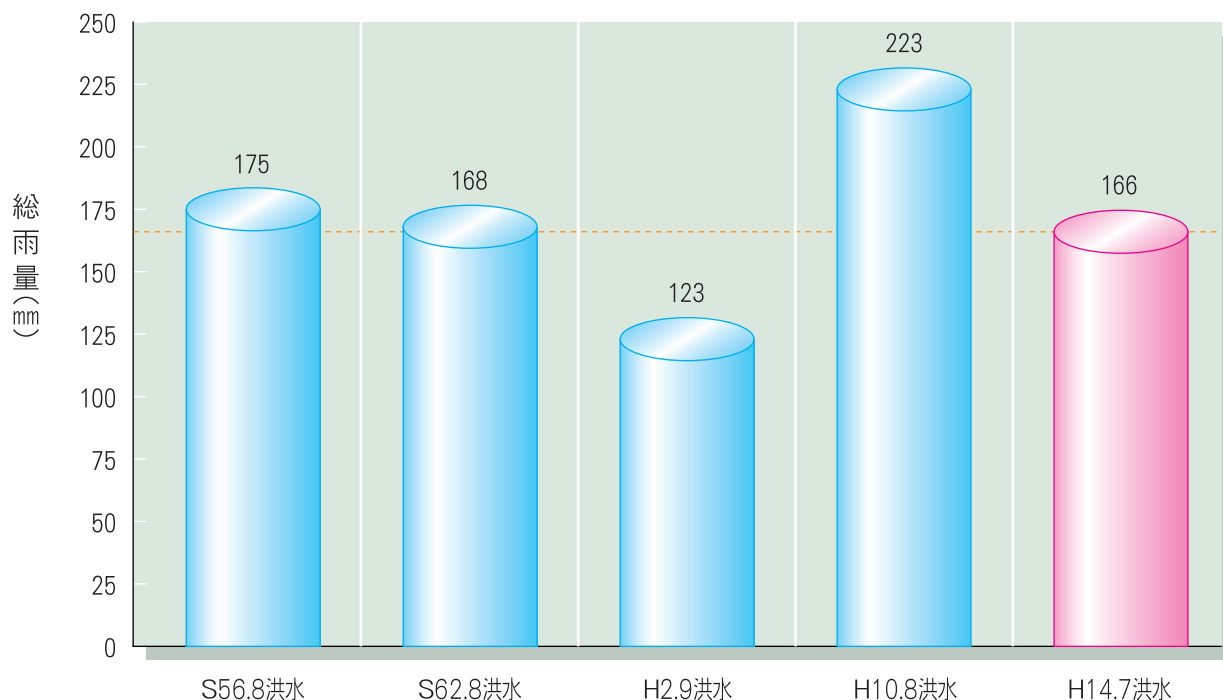
## 2.洪水の特徴

今回の洪水は、北上川の基準地点である一関市の狐禅寺水位観測所において、平成14年7月12日0時に最高水位13.51mを観測し、昭和22年のカスリン台風（16.89m）、昭和23年アイオン台風（14.89m）に次ぐ戦後3番目となる大規模な洪水となった。

今回の洪水で特徴的なのは、狐禅寺水位観測所で比較すると、昭和56年8月洪水、昭和62年8月洪水に比べ、雨が少ない反面、水位に関しては、昭和56年8月洪水、昭和62年8月洪水を1m以上大きく上回ったことである。

### ● 北上川近年における主要洪水の比較

総雨量比較（狐禅寺上流域平均雨量）



S56.8洪水(177mm)やS62.8洪水(168mm)、H10.8少ないのに水位はH14.7洪水(13.51m)が、S56.8

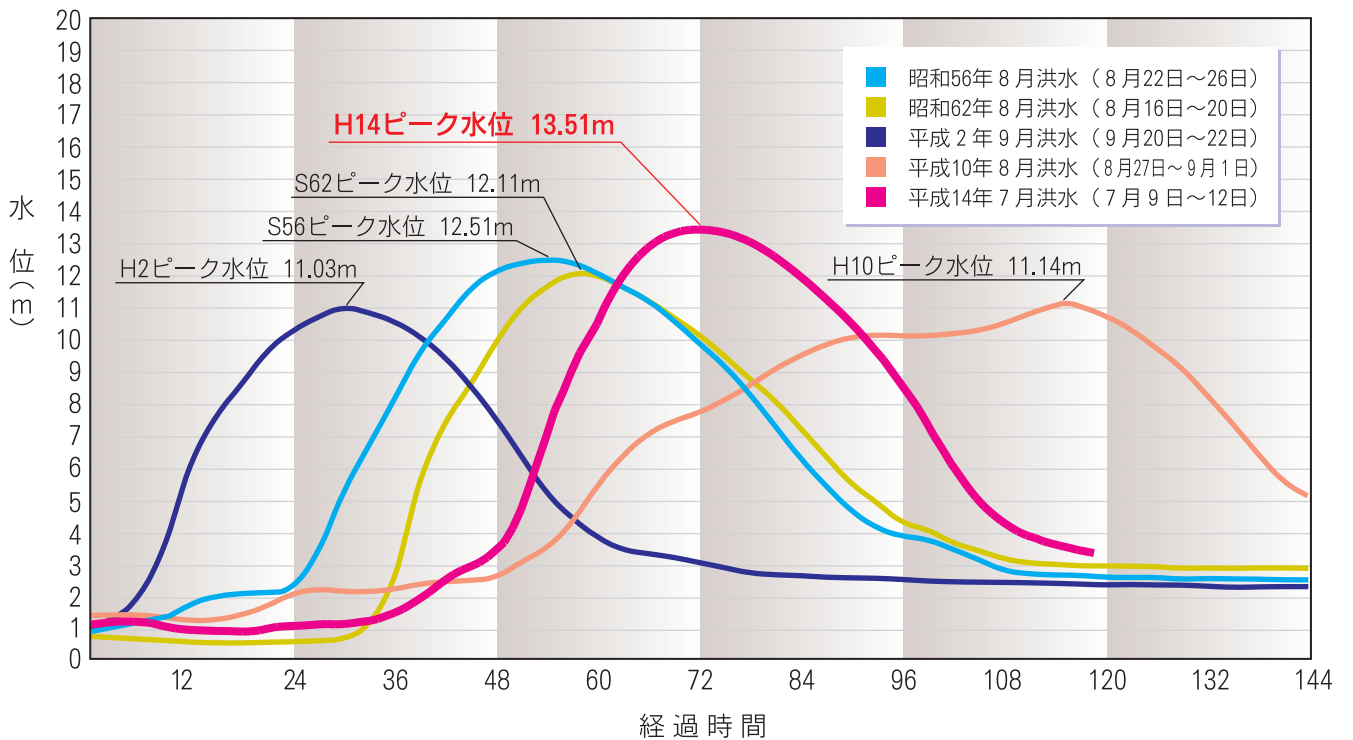


一関遊水地



磐井川(一関市三関地区)

毎時水位比較図(狐禅寺地点)



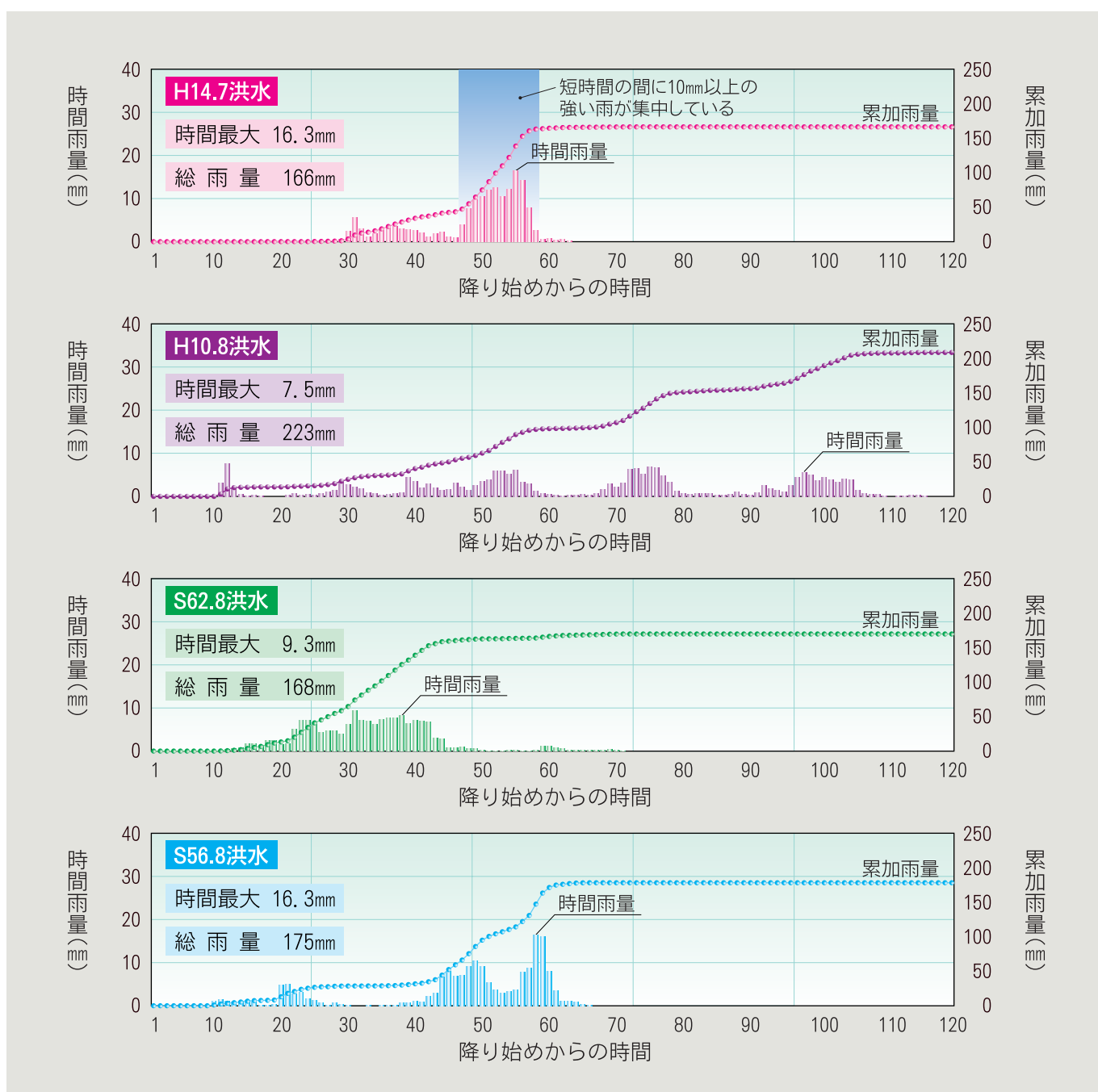
洪水(223mm)より、H14.7洪水(166mm)の方が総雨量が洪水やS62.8洪水、H10.8洪水を大きく上回っている。

# 原因その1 雨の降り方

このような現象が起きる原因として考えられるものは、雨の降り方（降雨パターン）の相違によるものが考えられる。下図により、昭和56年8月洪水、昭和62年8月洪水、平成10年8月洪水、平成14年7月洪水の狐禅寺地点上流域における降雨パターンを比較した結果、今回（平成14年7月洪水）は、その他の洪水に比べ、**短時間に集中的な降雨**があったことが分かる。

また今回の洪水がその他の洪水に比べ降雨の地域偏差が少なかったこと、すなわち、岩手県全域が同じ時間帯に均一的に雨が降ったため、北上川に流れ込む水のピーク時間が重なり、水位が急激に上昇したと考えられる。

## 狐禅寺上流域平均雨量



# 原因その2 雨の分布

二つ目の原因としては、降雨の分布性がある。今回の洪水と昭和56年8月洪水の等雨量線図（総雨量の分布を線で結んだもの）を比較すると、昭和56年8月洪水は、奥羽山脈を中心に雨が強く降ったものとなっているが、今回の洪水では、内陸の平野部を中心に雨が強く降った。

これは、今回の洪水は、ダムの流域に雨が少なかったことから、ダムの洪水調節機能が昭和56年8月洪水に比べ少なかったことにより、北上川の水位が大きくなったと推定される。

## 等雨量線図

